



こんにちは、岡田よしひでです

岡田よしひで事務所 864-2426 南国市駅前町 2-5-11 県議会共産党控室 823-9524 高知市丸ノ内 1-2-20

2019年 8月4日 発行
県議会活動報告ニュース
NO.10

自宅 南国市浜改田 430-1
TEL/FAX 865-2932
携帯 090-4337-4527

私の初質問続き

高齢難聴者

への支援を

ことばが聞こえにくくなると日常生活が不便になり、生活の質を落とす原因になります。またコミュニケーションが減り、社会的に孤立すること、認知症やうつ病のリスクが高まります。難聴になったら、なるべく早い補聴器の使用が聞こえの改善にとって大切です。

しかしその補聴器は高価です。年金暮らしの高齢者、所得の少ない人、生活保護利用者等には手が届きません。公的補助は重度・高度の難聴者に限られており、具体的には「40歳以上離れると会話が聞き取れない」人が対象です。

欧米諸国は世界保健機関（WHO）の基準を補聴器装着基準としています。難聴は「医療」の対象であり、難聴者の補聴器所有率は日本の14%に対し、イギリス48%、フランス41%、ドイツ37%、アメリカ30%と日本の倍以上です。

3月20日、参議院財政金融委員会で日本共産党の大門実紀史議員の補聴器購入への公的補助制度創設の求めに対して、麻生国務大臣



は「補助制度は）やらなければならぬ問題だ」と答えています。

私は、県が国に公的助成制度の早急な創設を強く提案するよう求めました。それまでの間、加齢性難聴で困っている方の現状把握、軽中度の子どもの補聴器補助制度創設に続き、高齢者への支援を検討すること、また相談体制の充実、公共施設等への補聴器を使われている方の聞こえをサポートする「磁気ループ」の設置を求めました。

地域福祉部長は、身体障害者手帳の対象とならない中軽度の難聴の方への国の支援制度は講じられていないのが現状だが、今後は各市町村の地域包括支援センターに相談があった際や、要介護認定にかかる聞き取り調査などの様々な機会をとらえて加齢性難聴の方の状況把握に努めてまいりたい。また、難聴が認知症のリスクを高める可能性があるとの指摘で、昨年度から補聴器での予防効果を検証する研究が始まっております。国への公的助成制度創設の提言や、県の支援策については、こうした国の研究結果や対応を踏まえて検討すると答えました。「磁気ループ」は設置を推奨しているとのこと。

おむすび通信 (10)

南国市議選が10月6日告示、13日投票でおこなわれます。5期20年務めた浜田つとむ市議のバトンを新人の杉本すじめさん（43）が引き継ぐと頑張っています。私も一緒に頑張ります。



うと頑張っています。私も一緒に頑張ります。



7月7日、地元地域の皆さんと一緒に南国市の浜改田海岸のいっせい清掃を行いました。遠くに浦戸大橋、桂浜が見えます。



7月27日、第48回大篠豊年祭りに伺いました。会場の大篠小学校校庭は、好天のもと多くの親子連れで大賑わいでした。